

## 会 議 録

- 1 会 議 名 令和7年度博物館協議会
- 2 議 題 ミッションの策定の諮問
- 3 開催日時 令和7年12月18日(木) 10時00分～11時30分
- 4 開催場所 zoomによるオンライン会議  
北九州市立自然史・歴史博物館 1階 会議室
- 5 出席者氏名 [協議会委員]  
阿部会長、杉山副会長、緒方委員、鬼本委員、佐野委員、  
須藤委員、立花委員、富田委員、針尾委員、舟橋委員  
(欠席：井上委員) ※委員11名のうち10名が出席  
[事務局]  
江藤普及課長、日比野歴史課長 他

6 会議経過(発言内容)

議題 ミッションの策定の諮問

【事務局説明】

博物館の作成したミッション案に関して、「これまでの経緯」、「ミッション作成にあたっての基本方針」、「ミッション作成にあたって取り込みたい要素」、「ミッション案」、「わたしたちの想い(ミッションの解説案)」を説明した。次に小委員会の主な意見の取りまとめ、各意見に対して博物館から回答を行った。

【委員意見○と事務局回答●】

- 一つの文章が少し長いと感じるので、一般の人が読んだときにどうなのかが気になる。しかし、ミッション案も解説も二度三度読むとよくわかる。「育ちあい」という言葉の意味がわからない。
- お互いに成長していこうという意志を込めている。行政などでも使用されている。
- 文部科学省が使っている言葉である。

- ミッションであれば、社会的な役割や立ち位置を貫くのかということへの言及があっても良いように思う。
- 学術論文などをとおして世界へ発信することや、それにより社会に関する様々な問いかけを行うことなどを含んでおり、考慮していないことではない。
- 来る人のことしか考えていないように取られかねない「展示をとおして」、「あらゆる人をお迎えします」の言葉をもう少し検討した方が良いのではないか。
- 言葉の意味は解説でも説明しているが、わかりやすくする工夫がないか検討したい。
- ミッションは普遍的なことを一つ掲げて、その下にビジョンという形で唯一無二や地域貢献などを書き、その下に活動方針を書くというような、段階分けをした方が良いと思う。
- 「ミッション・ビジョン・バリュー」という概念があり、これを参考に、この中の「ミッション」として検討している。
- 一般的な立場から読んだ際の具体的なところが理解しにくいと感じる。例えば「人々の営み」の指すもの、「来館者が自ら感じ取れる」は何を感じ取るのかなど。
- 「人々の営み」は、解説で示しているように特に歴史分野のことを紹介している。「来館者が自ら感じ取れる」は、もう一歩進んで、没入感など体感できる展示を目指すことを示している。
- 世界に発信したことがどのように北九州市に還元されるのか、北九州市のみへの還元で良いのかなど。
- 「知の探究に努めて世界に発信」は、地域に還元するだけでなく、日本中など様々なところで我々の研究が貢献していると考えている。説明が足りない部分は解説の中に付け加えるなどを検討したい。
- 2つの文章にしようと短くまとめようとしているが、違う文章にした方が分かりやすいのではないか。2つ目の文章は複数に分けた方が理解しやすいのではないか。
- 前段・後段の二つの大きな要素でミッションを示したいという方針だった。解説についてはイラストを交えた概要版などの作成も検討したい。

## 7 問い合わせ先

都市ブランド創造局 自然史・歴史博物館（093-681-1011）